

Wine Seminar 2016

for viticulture

2016
12.17^{sat}~19^{mon}

信州大学経法学部ワイン分析室 ワインセミナー2016 【栽培編】

2015年、「日本ワイン」が、国税庁によって法的に定義され、ますます注目を浴びています。信州大学経法学部では、日本ワインのさらなる発展、振興のために、昨年より、ワインプロジェクトを立ち上げました。今年は、その活動の一端として、ワイン生産者およびワイン用ブドウの栽培農家向けに下記の講演会とワークショップを開催します。

◆対象

日本全国のワイナリー関係者、日本全国のワイン用ブドウ栽培農家
日本各地 県・市町村の農政課、農林課、普及センター、試験場、
酒類総合研究所など各研究所

主催：信州大学 経法学部

社会科学実践教育研究センター ワイン分析室
(信州大学 社会基盤研究センター 共催)



12.17^土 講演&ワークショップ

場所：信州大学松本キャンパス 長野県松本市旭3-1-1
<http://www.shinshu-u.ac.jp/guidance/maps/map05.html#campus>

17日は3部構成

1部：講演会
2部：ワークショップ
3部：テイスティング&懇親会



[講師紹介]

荷田瑞穂 PhD (にた みずほ)



PROFILE

バージニア工科大学准教授/バージニア工科大学・アルソン・スミスJr農業研究普及センタースペシャリスト。オハイオ州立大学にて博士号取得。2011年より現職。近年はブドウウイルス感染、晩腐病の研究に注力。Virginia Grape Disease Updates運営 ※詳しくは裏面をご覧ください。
(<http://grapepathology.blogspot.jp/>)

1部 講演会 10:00~12:00/定員:190名
(経法学部 第2講義室)

1)基調講演 10:00~11:40(質疑応答10分)

演題「バージニア工科大学

葡萄病理ラボにおける研究と

エクステンション(技術普及)の融合」

講師：荷田瑞穂先生 バージニア工科大学准教授

Alson H. Smith Jr. Agricultural Research and Extension Center

2)信州大学経法学部 11:40~12:00

ワインプロジェクトの説明

今後のプロジェクト概要

大室農場の分析センター活動報告と来年度の計画

2部 ワークショップ 13:00~15:30/定員:43名

(経法学部 第4講義室) ※ワークショップは3日間すべて同じ内容です。裏面参照

3部 テイスティングおよび懇親会 16:30~19:30/定員:70名

1)バージニアワインテイスティング 16:30~17:30

2)懇親会 17:30~19:30

1)・2)会場：ヒカリヤニシ 長野県松本市大手4-7-14(0263-38-0186)

<http://hikari-ya.com/access.html>

会費：5,000円

(お1人あたりワイン1本をご持参いただけますようお願いいたします。)

12.18^日 ワークショップ&テイスティング

時間：10:00~13:00/定員:45名

場所：東御市中央公民館3F講堂 長野県東御市東288番地4 (0268-64-5885)

12.19^月 ワークショップ

時間：11:00~12:30/定員:45名

場所：高山村公民館 長野県上高井郡高山村高井4972番地 (026-245-1100)



信州大学
SHINSHU UNIVERSITY

経法学部

社会科学実践教育研究センター ワイン分析室

※講演、ワークショップ、テイスティングの概要及び申し込み方法は裏面をご覧ください。

Wine Seminar 2016

for viticulture 2016 12.17_{sat}~19_{mon}

信州大学経法学部ワイン分析室 ワインセミナー2016 【栽培編】



【講師紹介】

荷田瑞穂 PhD (にた みずほ)

バージニア工科大学の研究所Alson H. Smith Jr. Agricultural Research and Extension Center 准教授。専門は葡萄の病理学で、研究と共にバージニア州における技術普及(エクステンション)を担当。研究の主なテーマは病害菌の疫学的考察と応用学で、様々な技術を用いて病気もしくは病害菌の伝播や発生条件の特定を行い、生物学的理解に基づき、環境の保全に沿った病気の管理を目指しておられます。



◆申し込み方法

メールに下記事項をご記載の上、下記の申し込み専用アドレスにメールでお申し込みください。

表題(Subject): ワインセミナー申し込み

- 1) 氏名
- 2) 参加人数(1メールにつき5名上限)
- 3) 勤務先
- 4) 都道府県
- 5) 希望参加枠 ※B,C,Dの複数記載(希望順位を明記)も可能です。
A: 17日の講演
B: 17日(松本市で開催)のワークショップ
C: 18日(東御市で開催)のワークショップ&テイasting
D: 19日(高山村で開催)のワークショップ
E: 17日のテイastingおよび懇親会
(Eについては、お申し込み後のキャンセルをお断りいたします。)

◆申し込み期限

12月5日(月) 午前8時まで(お申込みメール受信日時)
お申込み人数が定員を超えた際にはご参加をお断りさせていただきます。予めご了承ください。

◆懇親会にご持参いただくワインについて

懇親会場の「ヒカリヤニシ」にお送りいただいても構いません。

送付先: 〒390-0874

長野県松本市大手4-7-14(0263-38-0186)

ヒカリヤニシ

お願い: メモ書き等で「12/17使用」とご記載をお願いいたします。

◆ご寄附のお願い

今回の講演会・ワークショップには無料でご参加いただけますが(テイastingおよび懇親会のみ会費制)、今後のワイン振興に関わる教育研究を継続するために、皆さまからのご寄附を募りたく思います。詳細は当日ご案内いたします。

略歴

- 2011-現在: バージニア工科大学、准教授、葡萄の病理研究
- 2009-2011: バージニア工科大学、講師、葡萄の病理研究
- 2007-2009: カンザス州立大学、ポストドクトラルスカラー、小麦の病理研究
- 2006-2007: ペンシルバニア州立大学、ポストドクトラルスカラー、小麦の病理研究
- 2003-2005: オハイオ州立大学にて博士号(PhD、植物病理学)課程修了、葡萄の病理研究
- 1999-2002: オハイオ州立大学にて修士号(MS、植物病理学)課程修了、苺の病理研究
- 1994-1997: NEC Logistics(埼玉県本市)勤務
- 1990-1994: 南イリノイ大学にて学士課程(BA、地理学)修了

◆講演概要

バージニア工科大学葡萄病理ラボの研究とエクステンション(技術普及)の取り組みについて。

前半: 米国では、近年のコスト削減や農家の変化によって、インターネット等(ブログ、ツイッター、フェイスブック等)を利用した長距離教育による技術普及が進む。バージニア工科大が実践中のワイン用ブドウの各種ウイルス病、胴枯病の研究結果の普及を例に、州や国レベルでの研究を現場の技術としてどう普及させているかをみていきます。

後半: 荷田先生のラボで推進中の研究の中で日本の生産者に関連するもの(晩腐病、QoI耐性問題、有機栽培の可能性など)の研究結果の発表していただきます。

◆ワークショップ概要

多雨条件下におけるワイン用ブドウの病理とその対策。グループワーク形式で、病原菌の生態、発病条件、耐性菌の問題などのレクチャーを踏まえながら、参加者には年間を通した抗カビ剤の散布スケジュールを組んでいただきます。

◆テイastingについて

荷田先生がバージニアからご持参されたバージニア産のワインをきき酒します。なお車でお越しの方は、テイastingできません。あらかじめご了承ください。